

つくば湧水マップ

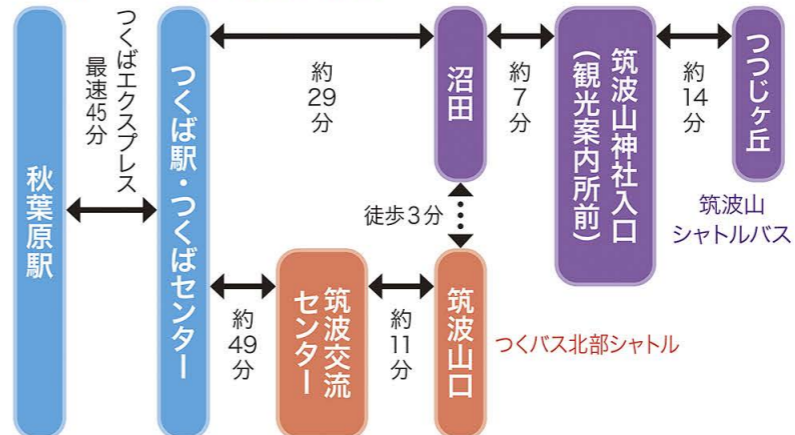


●湧水散策のマナー

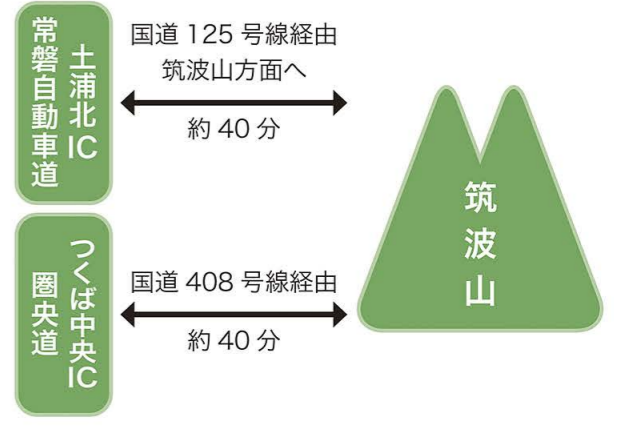
- 掲載されている湧水は飲用を保証するものではありません。むやみに飲まないようにお願いします。
- 共同利用や個人敷地内等の湧水があります。散策の際は、必要に応じて許可を得る等、周辺環境の保全も含め十分配慮をお願いします。

●筑波山へのアクセス

<電車・バスをご利用の場合>



<車をご利用の場合>



●つくば湧水マップ

発行日：2022年3月

編集・発行：つくば市 生活環境部 環境政策課

協力：つくば市環境マイスター、筑波大学

ルート1 往復約7.1km 筑波山麓の湧水を巡る探検コース

- 往路**
- 筑波六丁目 一の鳥居 ↓ 1.6km 徒歩20分
 - ふれあいの里近くの湧水 ↓ 1.2km 徒歩15分
 - 白滝神社
- 復路**
- 白滝神社 ↓ 2.5km 徒歩30分
 - 香の井 ↓ 0.6km 徒歩8分
 - 杉の井 ↓ 0.3km 徒歩4分
 - 椿の井 ↓ 0.4km 徒歩8分
 - 清水 ↓ 0.5km 徒歩9分
 - 筑波六丁目 一の鳥居



ルート2 片道約8.7km 400年の歴史をもつ「つくば道」をたどり、湧水を巡るコース

つくば道
寛永3年(1626年)、三代将軍家光の時、中禪寺(現在の筑波山神社)の堂社を一新する工事が始まり、北条から神郡を抜けて筑波に至る資材運搬路が作られました。これが後に「つくば道」と呼ばれ、参詣道となりました。



善門寺
真言宗で鎌倉末期の創建と伝えられます。江戸時代には約300の門末寺院をもちました。室町から戦国時代には茨城南部を収めていた小田氏の北の祈願寺で、南の法泉寺、東の南円寺、西の大聖寺で四方を固めていました。



ルート3 片道約2.2km 万葉の地、男女川の源流を訪ねるハイキングコース

御幸ヶ原コース
筑波山神社の拝殿から男体山山頂の本殿を結ぶコース。昔から「表参道」と言われる定番のコースです。



男女川源流の湧水
筑波山頂付近には多くの湧水が湧出しており、それらが集まって男女川等の川を形成します。男女川は、古来より多くの詩歌に歌われており、「筑波嶺(つくばね)の峰より落つる男女川 恋ぞつもりて 淵となりぬる」という歌が小倉百人一首に残っています。



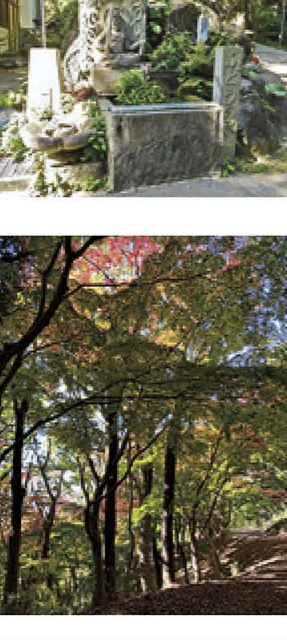
紫峰杉
紫峰杉の樹齢は800年で、夕日に照らされ紫色になる筑波山の別名「紫峰」から命名されました。

ルート4 片道約6km 霊水を求め四季の道を行くコース

推尾山薬王院(ふどうの水)
薬師如来を本尊とする天台宗の歴史ある寺で、筑波四面薬師の一つとしても知られています。周囲にはスタジイの巨木が群生しており、不動明王像の横には裏手の山の湧水を導水した「ふどうの水」があります。

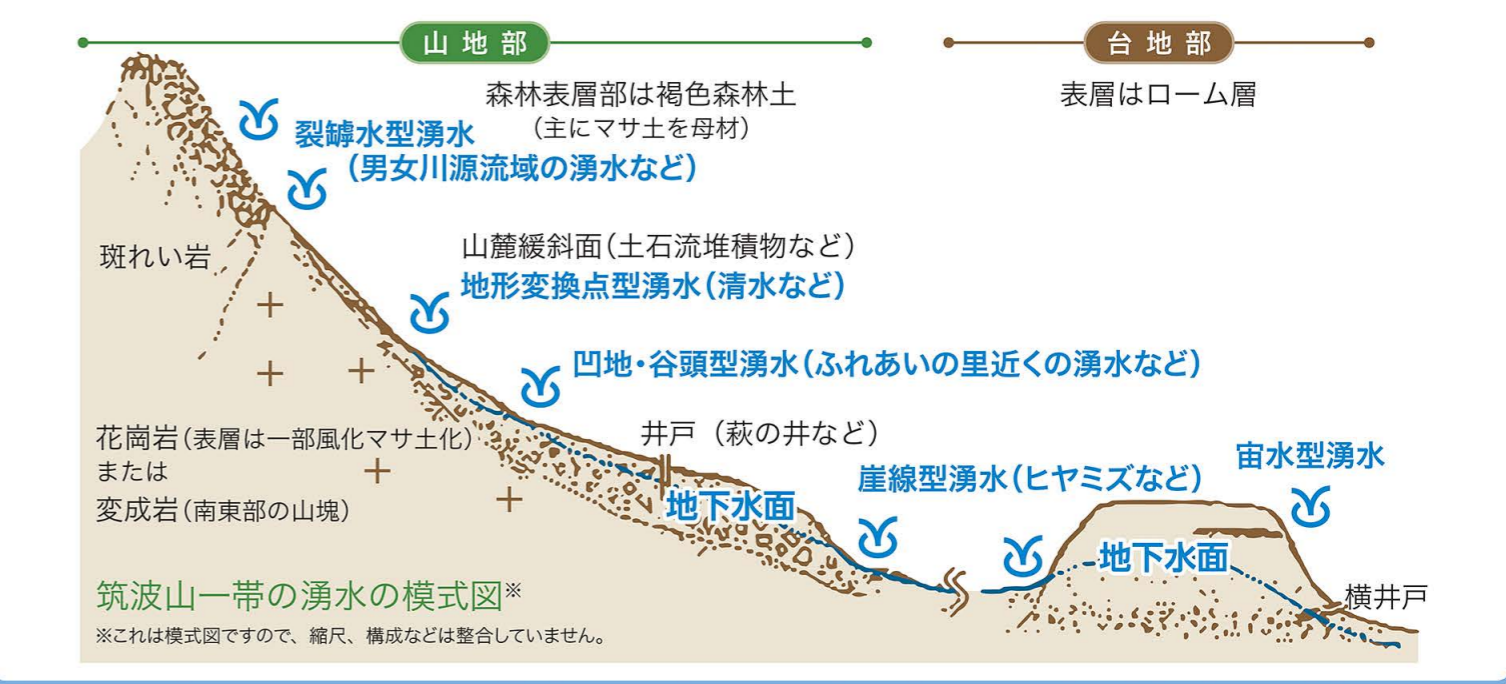


北谷のお不動様の滝
薬王院からつくし湖へ抜ける道には、湧水を水源とする二つの沢が流れており、合流する地点に不動様が祀られています。



筑波山麓の湧水ができるまで

筑波山に降った雨や雪は、少しずつ地下へ浸透していきます。山頂付近の斑れい岩は風化されにくいですが、亀裂などができやすく、水が浸透し、裂隙水型の湧水となります。筑波山山頂付近のブナ林やその他の落葉広葉樹、特に花崗岩風化物であるマサ土を主な母材とする褐色森林土は水を蓄えることが可能で、地下水となって山麓斜面に沿って流れ、地形が急斜面から緩斜面に変化する地点や、斜面の凹地や谷頭部で湧出することがあります。山麓の集落では、大切な山の恵みとして、湧水や井戸水が大切に使われてきました。



湧水

1. 御神水

筑波山神社の境内奥にあります。筑波山神社の上方に十一面観音を安置する「神窟」と呼ばれる岩屋があります。御神水はここから湧き出る水を源としています。また、境内にはクスノキの変種であるマルバクスの樹があり、標本木となっています。



2. 杉の井

神社横の筑波山江戸屋の敷地内にあります。筑波六井のひとつです。霊泉、御神水と呼ばれ、万病に効くという言い伝えが残っています。昔から枯れることは無く、沸き続けています。江戸屋さんでは、杉の井の水で沸かしたコーヒーが飲めます。



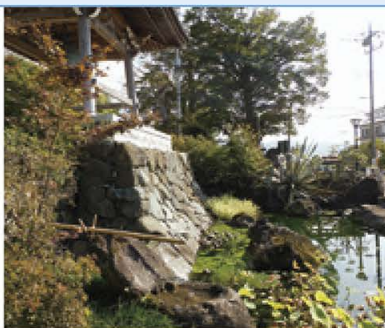
3. 六茂湧水

筑波山第一駐車場内にあります。湧水量が豊富で、かつては飲用として利用されていました。



4. 大御堂の湧水

大御堂鐘樓の石垣のすきまから湧き出ています。大御堂は坂東33箇所第25番札所です。



5. 香の井

筑波山神社から東に10分程度歩くと、香の井があります。筑波六井のひとつで、現在も生活用水として利用されています。この付近は昔、石岡から筑波山神社への参道でした。



6. 椿の井

旧筑波第一小学校の隣に、椿の井があります。筑波六井のひとつといわれています。この井戸を管理しているお宅は、昔、筑波山神社の「奥の院」の鍵を預かる家でした。かつては、近所の人たちが井戸の水を生活用水にしていた。



7. 清水

ケヤキとエノキが幹の部分で接合した大木の根本から水が湧いています。近くには二十三夜様の石碑と如意輪観音の石仏があります。また、清水から少し上になると清水稲荷があります。



8. 萩の井

清水からつづば道へ向かって徒歩3分くらい歩くと萩の井があります。筑波六井のひとつといわれています。この井戸のあるお宅は、江戸時代に「萩屋」という旅館を営んでいました。その当時井戸は建物の中にあつたといわれています。



9. K's Houseの湧水

筑波温泉ホテルから東に少し歩いたところにあります。ここは、人の生活域と野生生物の生息域が重なっており、サワガニ、ヒキガエル、イノシシや、留鳥、渡り鳥、さらにホタルなどの昆虫も水を求めてやって来ます。



10. ふれあいの里近くの湧水

ふれあいの里から歩いて5分くらい下ると林の中に湧水があります。多くの人々が水を汲みに訪れています。



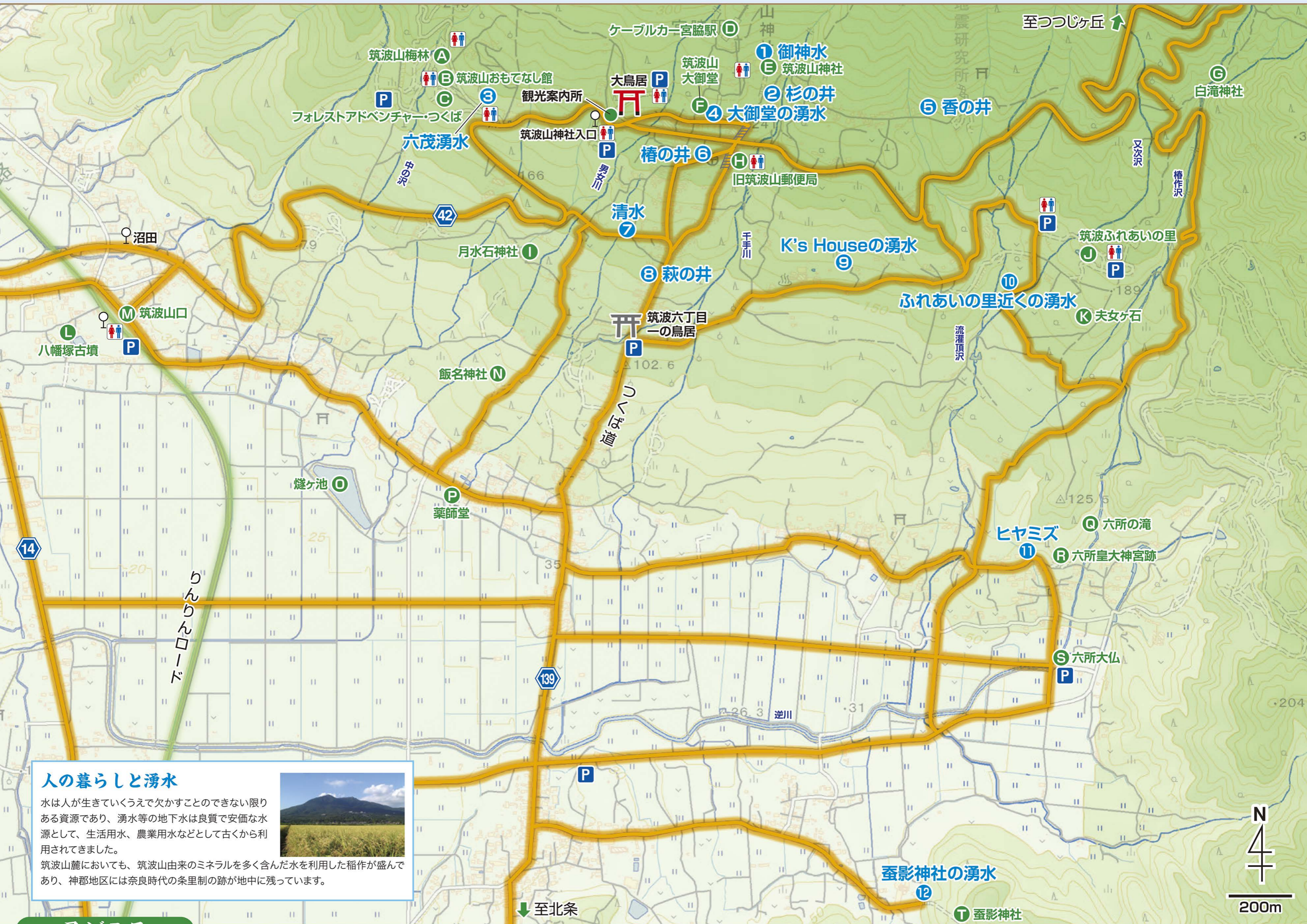
11. ヒヤミズ

六所皇大神宮跡近くにヒヤミズがあります。この水で六所神社の祭神が手を洗ったという言い伝えが残っています。少しわかりづらいですが、沢沿いの石碑が目印です。



12. 蚕影神社の湧水

蚕影神社の上り口にある春喜屋の敷地内に「蚕影山自然湧水」、「蚕影山湧水の滝」という2つの湧水があります。蚕影神社の雑木林を水源としています。



人の暮らしと湧水

水は人が生きていくうえで欠かすことのできない限りある資源であり、湧水等の地下水は良質で安価な水源として、生活用水、農業用水などとして古くから利用されてきました。筑波山麓においても、筑波山由来のミネラルを多く含んだ水を利用した稲作が盛んであり、神郡地区には奈良時代の条里制の跡が地中に残っています。



見どころ

- A. 筑波山梅林**
斜面に広がる4.5ヘクタールの園内に約1,000本の白梅・紅梅が植えられています。
- B. 筑波山おもてなし館**
休憩所や自然に関する展示が用意され、館内のカフェでは、コーヒーや物産品などが味わえます。
- C. フォレストアドベンチャー・つづば**
専用のハーネスを着用して、森の樹の上を渡っていく人気の自然共生型アウトドアパークです。
- D. ケーブルカー宮脇駅**
筑波山ケーブルカーは、高低差495mを8分で山頂駅のある御幸ヶ原まで運行しています。
- E. 筑波山神社**
筑波山を御神体として仰ぐ古社で、現在の拝殿は明治8年に造営、後に改修されたものです。
- F. 筑波山大御堂**
かつて中禅寺に祀られていた千手観音を安置しています。大御堂からは関東平野が一望できます。
- G. 白滝神社**
近くを流れる沢には白滝があり、今でも修験者が滝行を行っています。
- H. 旧筑波山郵便局**
昭和14年に造られた洋風の建物です。昭和50年まで使われていました。
- I. 月水石神社**
御神体の巨石の真ん中に穴があり、月に一度赤い水を流すといわれています。
- J. 筑波ふれあいの里**
宿泊施設をはじめ、バーベキュー場やコテージ、キャンプ場も併設しています。
- K. 夫女ヶ石**
この一帯は夫女ヶ原とよばれ、万葉集の雑歌(かがい)が行われた地の一つとされています。
- L. 八幡塚古墳**
6世紀の筑波国造の墓と伝承がある前方後円墳であり、県の指定文化財となっています。
- M. 筑波山口**
かつての筑波鉄道(現在は自転車道「りんりんロード」)の筑波駅舎を改修したバス停。
- N. 飯名神社**
本殿の後ろにある巨石が御神体とされています。その歴史は古く、江戸時代以降は「飯名の弁天様」とも呼ばれ親しまれています。
- O. 燧ヶ池**
江戸時代の古絵図にもあるため池です。春は桜、秋は彼岸花が楽しめます。
- P. 薬師堂**
イチヨウの大樹の下にあります。木造の薬師三尊像と十二神将像が祀られています。
- Q. 六所の滝**
六所皇大神宮跡から約200m上ったところに六所の滝があります。
- R. 六所皇大神宮跡**
この地には六所神社があり、明治43年に廃社されて蚕影神社に合祀されました。
- S. 六所大仏**
世界の平和と日本の安全、つくば市の発展と郷土の繁栄を願い、個人の方が建立した大仏。
- T. 蚕影神社**
全国にある蚕影神社の総本社として、「金色姫(こんじきひめ)伝説」があります。

筑波六井

筑波山神社周辺には、六井と呼ばれる井戸があり、萩、杉、椿、香、月、雲と、万葉の里にふさわしい雅やかな名前が付けられています。しかし、それぞれの井戸がどの名前なのかは、はっきりしません。杉の井と香の井に関しては、誰もが同じ井戸を指すので間違いありませんが、ほかの井戸に関しては人によって異なります。なかには、西山地区にある「清水」を六井の一つとする人もいます。この「清水」に関しては、雲の井の別称であるという説もあります。筑波六井は江戸時代に命名されたといわれています。